

## 広島市公共事業見直し委員会

「財政再建の道すじ明らかに」  
「公平・公正・プロセスの透明化」  
「事業評価分析手法」  
などなど

## 大きな収穫あり！

秋葉市長「なんらかの形で継続したい」

## 秋葉市長の発言要旨

委員のみなさんには、献身的に努力していただき深く感謝したい。

(財政危機という)ピンチをチャンスととらえ、新しい方向性を広げるために専門家をお願いした。(見直し委の論議のなかでの)公平、公正、プロセスの透明化などは、今後の行政運営の一つのモデルとなるもの。職員が評価分析の手法などを学んだことも大きな収穫となった。

公共事業見直しや行政改革、財政改革は緒に就いたばかり。委員会の機能や方向は重要なので、今後、なんらかの形で継続していきたい。

委員のみなさんには、どんな形になろうとも(これからも)お力添えをお願いしたい。

## 新年度予算からの運営費削減うけて緊急会合

広島市公共事業見直し委員会(地井昭夫座長)は3月31日、市役所で会合を開きました。市議会が04年度予算案から同委員会の運営費を削除したため、年度末に急ぎよ召集されたのですが、7人の委員が全員出席しました。

同委員会は昨年7月の初会合以来、今回で11回の会合を重ね、大規模プロジェクト計25件を「中止」「いったん中止」とした中間報告(10月、2月)を市長に提出。大型開発の削減によって財政再建を図るという道すじに大きく貢献しました。

会議冒頭、秋葉市長は、議会が同委員会の開催費を削減したことについて、「予算が認められなかったのは残念」と述べつつ、「今後もなんらかの形で委員会を継続したい」との意向を示しました。

## 各委員の発言要旨

【五十嵐敬喜・法政大学法学部教授(公共事業論)】 財政的には寄与できたと思うが本質的にはバリエードが高くなった。(見直し委の)予算削除は理解できない。今後、地方自治体の財政はさらに厳しくなる。今ストップしておかないと危機は進化して、モンスターになっておそいかかる。市民の声をきく必要がある。

【伊藤敏安・広島大学経済学部附属地域経済システム研究センター長・教授(地域開発論)】 市民が危機意識を持つことが大事。自助努力にむけて一石を投じたことは役に立ったと思う。

【地井昭夫・広島大学大学院教授(都市計画)】 国立大学の独立法人化で大学の最高経営協議会のメンバーは半分以上が学外者。県の包括外部監査も指摘しているように、部外者・第三者機関の参画は常識では。市民1人当たり84万円の借金を減らしたいとの思いからささやかな取り組みだった。(論議継続にむけ)スタンバイしている。

【中村良平・岡山大学経済学部教授(都市経済学)】 このまま進めば後戻りできない。もっと時間をかけて検証すべきだった。ぜひ局内でも慎重に、事前、事中、事後の評価にとりくんでほしい。これからの都市間競争はハードではなく、人が喜ぶソフトをどれだけ早く充実できるか。議会も対案を示してもらえばよかったと思う。

【肥田野登・東京工業大学大学院社会理工学研究科教授(社会工学)】 専門医を各地から集めて町医者で解決できない問題を解決するために召集されたと思っている。今の財政危機は根が深い。市民は所得の7~8%相当の税金を払っているのだから、税金がどう使われているのかもっと関心をもつべき。市民が声をあげない限り(市政は)変わらない。

【山家悠紀夫・神戸大学大学院経済学研究科教授(日本金融経済論)】 今後も市長の意向にそって協力したい。これまでは予算の制約をうけて事業の取捨選択をしたが、本来は予算があってもやっつけられないもの、予算がなくてもするべきものがあり、見直し委の役割はそれを判断することだったのではないか。これから市民の意見をきくよう予定していたが、できずに残念。市民の声をきくことで見直し委の論議も深まったと思う。

【若尾典子・県立広島女子大学生生活科学部教授(憲法)】 見直し委にたずさわる中で、一市民として税金がどう使われているか、いかに重要なものを扱っているか、これではいけないと痛切に感じた。従来のやり方では税金を捨てるようなもの。税金を生かしたいと思うようになった。見直し委の予算削除には愕然とした。当局のなかにも委員とのキャッチボールの中で見直しの芽が出てきたと思う。この芽を絶やさぬ方法を市民が考えてほしい。

# 米軍機が被爆地ヒロシマ上空を夜間飛行 広島市が米軍に抗議文、政府に要請文送る

## 平和都市として許せません!

3月18日午後10時すぎ、米軍機が初めて広島市中心部の上空を飛行しました。

広島県と広島市は4月1日、米海兵隊岩国基地の司令官ディビット・T・ダラー大佐とハワード・ベーカー駐日大使に抗議・要請文を送付。川口順子外相、山中昭栄防衛施設庁長官にも低空飛行訓練の実態を明らかにするよう求めた要請文を送りました。

日本共産党広島市議団は、市が抗議文を送付するのに先立ち、「日米合意さえ踏みにじるごう慢な振る舞い」として米軍に厳重抗議するよう秋葉市長に申し入れました。

対応した増田学・市民局長は、「早いうちに米軍に抗議する」と答えていました。

日本共産党市議団  
いちはやく市長に申し入れ



### 秋葉市長に対する日本共産党市議団の申し入れ(全文)

広島市長 秋葉忠利 様

#### 米軍機の市内上空飛行に関する申し入れ

厳しい社会経済状況の中、市民生活の安全を守り、平和都市ヒロシマとしての責務を果たすために積極的に取り組んでおられることに敬意を表します。

その市民生活の安全と、平和都市市民の願いに反する事件が在日米軍機によって発生しました。去る3月18日午後10時17分ごろ、広島市内上空をおよそ500メートルの高さで米軍機が飛行しました。3月26日には在日米軍当局がその事実を認めました。

これまで特に広島県北部で、県民の強い抗議と中止要求を無視して、米軍機による低空飛行訓練が繰り返されてきました。こうした中で実際に住民生活への深刻な被害も起き、いつ墜落するかという不安な生活を強いられる事態が続いています。

とりわけ今回は、平和都市・被爆都市ヒロシマの上空を、さらに人口密集市街地の上空を、しかも深夜に飛行するというおおよそ常識ともかけ離れたことであると同時に、平和都市市民の願いだけでなく米軍機の飛行に関する「日米合意」さえ踏みにじる傲慢な振る舞いだと言わねばなりません。

こうした事態に対し、ヒロシマの市長として 米軍当局に十分な説明を求めるなど必要な調査をされるとともに、再びこうしたことを引き起こすことがないよう、厳重な抗議と要請を米軍当局およびわが国政府に行われるよう要請いたします。

2004年4月1日

日本共産党広島市議会議員団

団長 皆川 恵史

幹事長 中森 辰一

中原 洋美

村上 厚子

藤井 敏子

### 米軍岩国基地に対する秋葉市長の抗議文(全文)

米海兵隊岩国航空基地司令官ディビット・T・ダラー大佐

#### 米軍機による低空飛行訓練について(抗議)

貴基地は今年3月18日22時前後広島市上空を軍用機を飛行させたことを認めた。

本市には市民から今までに聞いたことがないような大きな爆音を聞いたとの情報・苦情が多く寄せられたことから米軍機が低空で飛行したことは疑う余地が無い。飛行機の爆音は夜間であったこともあり多くの市民に不安を与えた。

今回の米軍機の飛行は、明らかに平成11年の日米両国政府による在日米軍の低空飛行訓練についての合意である人口密集地域への考慮を欠くものであり、厳重に抗議する。

また、米軍はこれまで軍用機の墜落事故や機体部品落下事故などを引き起しており、このような事故が人口密集地域である本市で起きれば、大惨事となることは明白である。

さらに、人類史上初の被爆都市であり、世界恒久平和の確立を訴え続けている本市の上空を、軍用機が市民に不安を与える形で飛行することは市民感情からしても断じて容認できるものではない。

こうしたことから、貴職におかれては、米軍機の低空飛行の実態を明らかにし、地域住民の不安を取り除く観点から米軍機の低空飛行訓練を中止するよう強く要請する。

2004年(平成16年)4月1日

広島市長 秋葉 忠利